

瞬庵

(2001年)

勅使河原宏の追憶に

箏 1

演奏法：

楽譜はだいたいのもの 変えてもよい

拍はない 他の楽器とそろえない

きこえる音のあいまにじぶんの音色を差し入れるようにして

一音ずつ間をつめ あるいはひらく

(秋風調子)

箏

調絃：

絃はできるだけゆるく張る

他の楽器とはすこしずれるように 完全に合わせない

四、五、七、九、十、為は低めにとる

押し手は弱めにし、上がりきらずに

初段

箏からはじめる

三 二 六 三 四 五 一 六 七 二 三 二 三 六 七 三 八 斗 十 九 八 二 六 五 四 二 六 七 六 五 四

六 五 四 六 五 四 八 加 五 四 二 十 斗 十 九 二 十 斗 巾 斗 斗 斗 斗 十 斗 八 八 七

六 七 為 巾 為 斗 三 斗 九 九 斗 七 六 七 八 斗 十 斗 七 為 七 三 八 八 八 五 九 八 七 九 八 七

十 斗 十 九 二 三 五 六 四 十 八 九 六 斗 十 九

三絃の終わるのを待って二段へ

箏 2

二段 目に映る断片にもとづいて自由に演奏 あるいは即興

This section contains multiple staves of music with various rhythmic markings and fingerings. The notes are often grouped with slurs and have numbers above them indicating fingerings (e.g., 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9). Some notes have arrows above them pointing up or down, indicating breath or bow direction. There are also some specific markings like '斗' (dou) and '為' (wei) which are traditional notation for specific techniques or ornaments. The music is written on a single-line staff with a key signature of one flat.

三段 箏・三絃はほぼ同時にはじめ かなりおくれて 尺八が入る

This section shows the entry of the shamisen (箏) and the eighth flute (尺八). The notation includes complex rhythmic patterns and fingerings. There are several slurs and accents throughout. The music is written on a single-line staff with a key signature of one flat. The text below the staff indicates that the shamisen and eighth flute enter almost simultaneously, but the eighth flute enters significantly later.

尺八のおわるのを待たず 四段へ

箏 3

四段

箏 三絃 目に映る断片にもとづいて演奏 あるいは即興
 尺八がおわるとひとときわ暗くなり そのなかで唄
 唄は 次の詩句を箏・三絃で分担し
 目に映る手に合わせ
 あるいは手のあいまにうたい (フシは自由)
 あるいは語る

海辺の松の傾き に寄せかけられた

すきまだらけの空間

近づくと

この仮屋の内側も やはり砂丘

家は 幻

どこからともなく 人びとがあらわれ

なにかを待ちながら 空を見ている

箏 4

() 書かれた断片にもとづいて即興的に長く演奏し
しだいに次の断片に移る
前にもどってもよい

柱をうごかす

唄は分担

かぜ

おぼろづき

合の手

目に映る断片にもとづいて自由に演奏 あるいは即興

五十六五十六

六六斗六斗六斗

十九八七

九十八七三三六

七為八

三三六

四九四九四九四九

六五六

九八七

箏 5

後唄

書かれた断片にもとづいて長く即興的に演奏し
しだいに次の断片に移る
前にもどってもよい

唄は分担

浮かぶ たけ の
(竹)

ほのかな金色の 曲が り

足許に ささやくともしびの れつ
(灯火) (列)

ゆらめく人影の ちゃかい
(茶会)

まばら なたけ のトンネルをくぐって まよい 出る
(竹)

かりそめの

狂言ぶ たい
(舞台)

偶然にまかせて切られた窓枠が

箏 6

八八九 巾七八 斗七 斗十 3 七
 2-3 六七八 十 3 四 九 八 七

かさなり 壁も 屋根 もない
 骨だけになってしまった

六七八 九 十 九 八 七
 七八 七八 七八 七八 五六 十

またたき の いおり
 ささえあって

サム 九八 八九 十 九 八 七 カム 六 五 V

止メ 尺八が吹き終えた後で
 四五 六七八 九 八 七 六 五

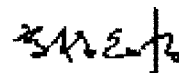
やっと 立っ て いる
 人の世の 夢

三絃 1

瞬庵

(2001年)

勅使河原宏の追憶に




演奏法：

楽譜はだいたいのもの 変えてもよい

拍はない 他の楽器とそろえない

きこえる音のあいまにじぶんの音色を差し入れるようにして

一音ずつ間をつめ あるいはひらく

三絃  調絃：
他の楽器とはすこしずれるように 完全に合わせない
D、G、A、C以外の勘所は低めにとる

初段

箏よりおくれて入る



三絃 2

二段 目に映る断片にもとづいて自由に演奏 あるいは即興

三段 箏・三絃はほぼ同時にはじめ かなりおくれて 尺八が入る

三絃 3

箏 三絃 目に映る断片を演奏 あるいは即興
尺八がおわるとひととき暗くなり そのなかで唄

四段

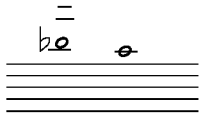
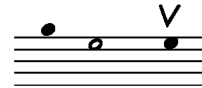
目に映る手に合わせ
あるいは手のあいまにうたい (フシは自由)
あるいは語る



海辺の松の傾き に寄せかけられた



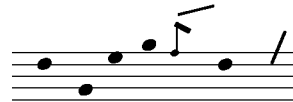
すきまだらけの空間



近づくと



この仮屋の内側も やはり砂丘



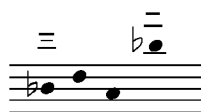
家は 幻



どこからともなく 人びとがあらわれ



なにかを待ちながら 空を見ている



三絃 4

() 書かれた断片にもとづいて長く即興的に演奏し
しだいに次の断片に移る
前にもどってもよい

唄は分担 かぜ

おぼろ づき

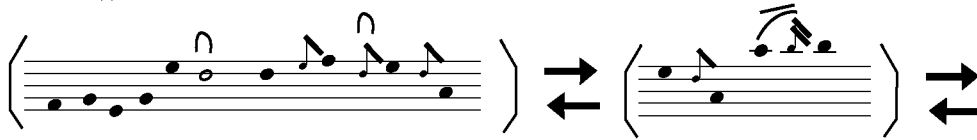
合の手

目に映る断片にもとづいて自由に演奏 あるいは即興

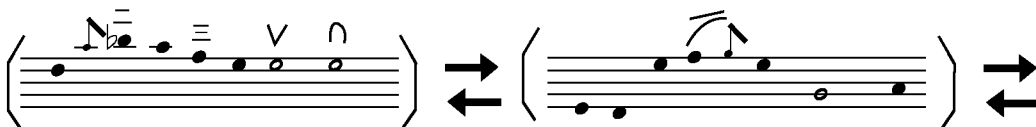
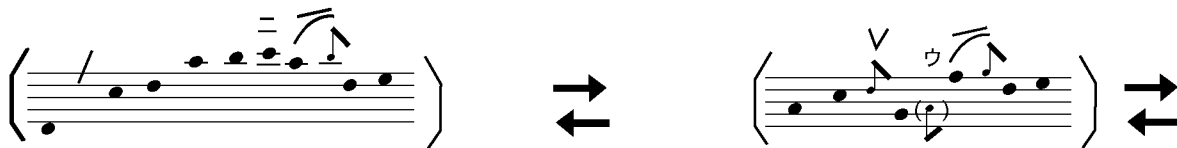
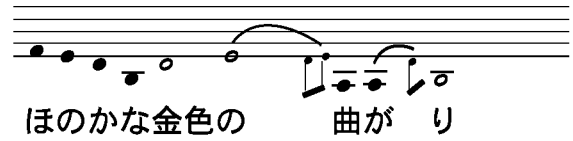
三絃 5

後唄

書かれた断片にもとづいて長く即興的に演奏し
しだいに次の断片に移る
前にもどってもよい



唄は分担



三絃 6

かさなり 壁も 屋根 もない

骨だけになってしまった

またたき の いお り

ささえあって

やっと 立っ て いる

人の世の 夢

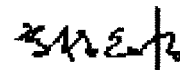
止メ 尺八が吹き終えた後で

尺八 1

瞬庵

勅使河原宏の追憶に

(2001年)



演奏法：

楽譜はだいたいのもの 変えてもよい

拍はない 他の楽器とはそろえない

きこえる音のあいまにじぶんの音色を差し入れるようにして

一音ずつ間をつめ あるいはひらく

一尺八寸



調律：

他の楽器とはすこしずれるように 完全に合わせない

D、G、C以外の音は低め（メリ気味）にとる

スリは上がりきらないように

初段、二段は休み

三段

箏・三絃よりかなりおくれて入り、他が四段に入っても最後まで吹く



尺八 2

四段は休み

四段のあと

かぜ

おぼろ づき

書かれた断片にもとづいて長く即興的に演奏し
しだいに次の断片に移る
前にもどってもよい

合の手は休み

後唄……

やっと立っている

人の世の夢

止メ

コミ

オトシ